

# V 秋田の食の魅力の磨き上げ と県外への販路拡大



# 1 食品産業の振興

## 1 食品産業

### ◎食品産業は重要な地場産業

本県の食品産業は、県民に対する食品の安定供給をはじめ、県産農産物の付加価値の向上、地域における雇用や所得の向上に寄与するなど、本県経済にとって欠くことのできない重要な役割を担っている。

製造品出荷額においても、食品産業は製造業全体の9.6%と、電子部品・デバイス・電子回路に次ぐ地位にあり、今後とも、地域に密着した産業として、発展が期待されている。

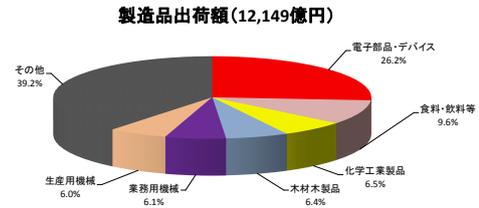
### ◎全国と比較すると出荷額は低位にある

食品産業は県内の主要産業の一つであるが、全国と比較すると、製造品出荷額等は47都道府県中44位と低位にある。

### ◎出荷額の低い小規模企業の割合が大きい

本県の食品産業を従業者規模別にみると、全398社のうち、4～9人規模の小規模な事業所が182社で全体の46%を占める。一方、製造品出荷額では、30人以上の事業所が全体の70%を占めている。

〈図5-1〉県内製造業に占める食品産業のシェア



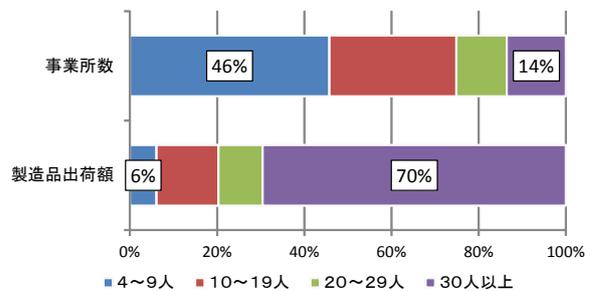
資料：経済産業省「平成26年工業統計調査」  
(従業者4人以上の事業所)

〈表〉本県食品産業(飲料等含む)の全国での地位

順位	製造品出荷額等(百万円)	
1	静岡県	2,378,535
2	北海道	2,209,795
3	愛知県	2,049,330
18	福島県	678,964
20	宮城県	641,514
25	青森県	420,702
28	岩手県	355,997
30	山形県	345,031
44	秋田県	116,998
	全 国	35,532,845

資料：経済産業省「平成26年工業統計調査」  
(従業者4人以上の事業所)

〈図5-2〉従業者規模別事業所数・製造品出荷額



注)「食料品」と「飲料・飼料」の合計値  
資料：経済産業省「平成26年工業統計調査」

◎食料品の県際収支は輸移入超過

産業連関表からみると、平成17年の食料品における原材料等の県内調達率は36.0%（飲料・たばこ等を除く）であり、本県は農業県といわれているにもかかわらず、食料品の県際収支は輸移入超過となっている。

＜表＞食料品等の県際収支

	県内需要 (百万円)	県内調達率 (%)	県際収支 (百万円)
食料・飲料等	314,656	25.8	△137,237
食料品	208,382	36.0	△58,758
清酒	3,227	87.0	18,426
飲料	62,877	4.6	△57,174
飼料等	15,452	2.7	△15,013
たばこ	24,718	0.0	△24,718
農 業	181,818	68.9	79,116
漁 業	7,696	35.5	△2,936

資料：平成17年秋田県産業連関表

◎出荷額が多いのは部分肉・冷凍肉、清酒、パン、めん類、精米・精麦

業種別に見ると、製造品出荷額等が多いのは、部分肉・冷凍肉、清酒、パン、めん類、精米・精麦の順になっている。

＜表＞食品産業の業種別の概況

業種	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等	
			(万円)	%
部分肉・冷凍肉	16	536	2,147,949	18.4
肉加工	5	91	73,505	0.6
缶詰・保存食料品	21	499	579,481	5.0
野菜漬物	20	227	148,231	1.3
味噌	12	140	149,185	1.3
しょう油・食用アミノ酸	6	124	120,305	1.0
精米・精麦	7	245	773,114	6.6
パン	8	827	1,028,482	8.8
生菓子	33	581	367,566	3.1
米菓	6	57	31,634	0.3
めん類	69	1,033	808,618	6.9
豆腐・油揚	17	193	102,459	0.9
そう(惣)菜	9	136	89,317	0.8
すし・弁当・調理パン	8	772	609,385	5.2
清涼飲料	4	72	55,827	0.5
清酒	37	752	1,535,232	13.1
その他	120	2,127	3,079,498	26.3
合計	398	8,412	11,699,788	100.0

資料：経済産業省「平成26年工業統計調査」

(従業者4人以上の事業所)

## 2 食品の研究開発

### ◎最新の科学技術を活かす食品開発の拠点

総合食品研究センターは、県内の食品開発の拠点として、食品産業の技術力向上や、県産農林水産物の利用に関する基礎から応用に至る幅広い分野での研究開発をはじめ、企業やJA、女性起業グループ等への技術支援、研修や各種研究会を通じた情報提供を行っている。

また、開発した研究成果の技術移転を積極的に進め、食品産業の活性化を図っている。

### ◎技術相談

総合食品研究センターには、食品製造に関するあらゆる分野について、技術の相談や情報提供を求める問い合わせが寄せられている。

平成27年度は750件の相談を受けており、現地指導の実施や共同研究への発展、各種補助事業を活用した新商品開発等に結び付いている。

### ◎各種制度で企業をサポート

総合食品研究センターでは、個々の企業が商品開発や製造工程等の課題解決や技術力向上、人材育成を支援するため、共同研究や開放研究室など、様々な制度を整備している。

### ◎各種研修の実施

総合食品研究センター主催の各種研修や地域振興局との連携による現地研修を実施し、食品加工の裾野の拡大と技術レベルの向上、新技術の普及を図っている。

＜表＞平成27年度業種別技術相談件数

畜産加工	18	豆腐・納豆	10
水産加工	35	飲料	12
野菜山菜果実加工	125	清酒・濁酒・焼酎	166
漬物	46	果実酒・ビール	18
味噌・醤油・麴	79	その他アルコール類	7
米・米粉加工	57	バイオマス利用	5
製粉穀類	13	白神微生物	22
菓子・パン	68	その他	58
めん類	11	合 計	750

＜表＞平成27年度の実績

	件数等	備 考
共同研究等の実施	28件	30社
開放研究室の利用	0室	月額79,200円
機器の貸付制度	25件	
研修員等の受入	5名	長2名, 短3名

＜表＞各種研修の開催実績(平成27年度)

研 修 名	回数	人数	開催場所等
食品加工研修	18	194	センター、秋田市、 潟上市、仙北市、横 手市
酒造講習会	12	446	センター、秋田市、 仙北市、横手市
計	30	640	

## 2 国外への販路拡大

### 1 農林水産物の輸出入

#### ◎県産農産物輸出の状況

県産農産物・食品の輸出実績については、国内流通の中から卸業者等により輸出されているものもあるため、全体的な数量は把握できないが、米、りんご、日本酒、稲庭うどんなどが、台湾、香港、シンガポール等へ輸出されている。

県産農産物の輸出に取り組む事業者は、米が14組織、りんごが1組織、なしが2組織、ももが1組織となっている。

〈表〉秋田県からの主要農産物の輸出数量(t)

品目	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
米	466.1	827.5	944.1	666.7	1318.8	477.2
りんご	16.8	7.9	4.5	7.7	5.2	4.5
なし	0.1	0.1	0.3	0.2	0.0	0.1
もも	1.5	1.5	3.2	0.1	0.5	1.9

資料：県農業経済課販売戦略室調べ

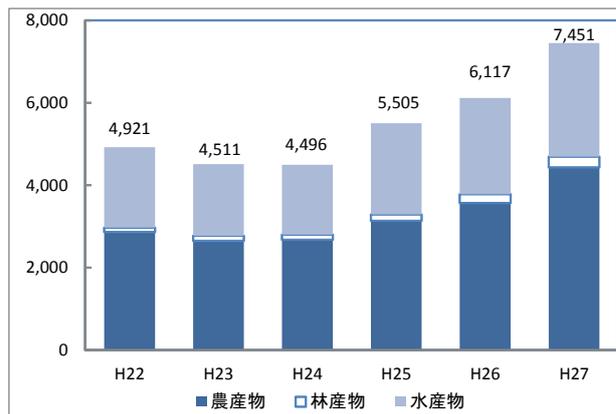
〈表〉主な輸出品目と輸出先

品目	輸出先国
米	シンガポール、マレーシア、アメリカ、香港 等
りんご	香港、ロシア 等
日本酒	アメリカ、香港、台湾、韓国 等

資料：県秋田うまいもの販売課調べ

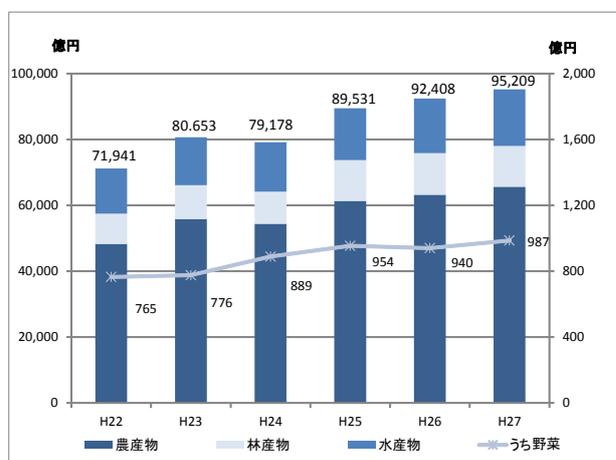
県農業経済課販売戦略室調べ

〈図5-3〉全国の農林水産物輸出の動向



資料：農林水産物輸出入概況

〈図5-4〉全国の農林水産物輸入の動向



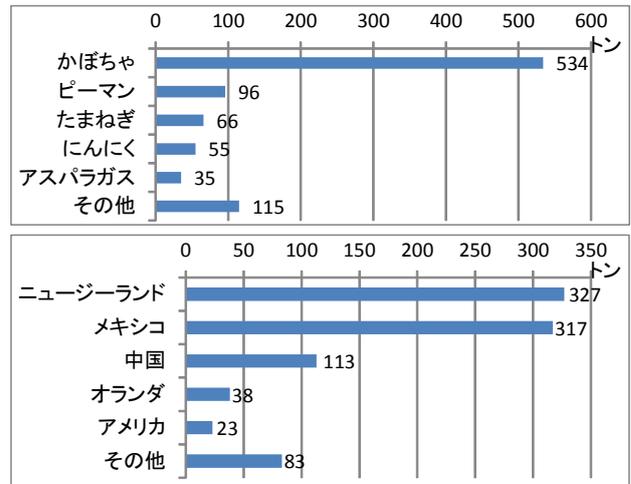
資料：農林水産物輸出入概況

◎県内輸入野菜の主力はかぼちゃ

県内に出回る輸入野菜は総量の把握はできないものの、秋田市卸売市場における平成27年の生鮮輸入野菜取扱量は、入荷総量の2.6%に当たる901トンであり、前年比106%であった。

品目別では、かぼちゃ、ピーマン、たまねぎの順となっており、原産国別では、ニュージーランド、メキシコ、中国の順となっている。

＜図5-5＞H27秋田市卸売市場の生鮮野菜の輸入実績



資料：秋田市卸売市場年報

